

窓辺

未来を創る

いけの
池野 文昭
ふみあき

「未来はどうなるのか？
教えてほしい」と質問されることが多い。残念ながら、占い師でも未来を確実に当てることはできない。「未来を予測する最良の方法は、未来を自ら創りだすことだ」。20世紀最高の経営学者ピーター・ドラッカーの名言である。

スタンフォード大では、未来を創ることができリーダーの育成に力を入れていく。技術中心の開発スタイルから人間中心の開発スタイルへ、専門分野の縦割りから異分野の交わりへ、

1人でできることの限界を知り、異質が交わるチームの重要性、それをまとめるリーダーシップ教育—など、今までの大学とは違う教育に力を入れている。

物の作り方のみを学ぶことから、どんな価値を生むために何をすべきか。そして、それが実行できる人を育てるのだ。「物作り」から「コトづくり」、そして、それができる「人づくり」へ。

人財育成は、植林事業と同じ。耕して種をまき、樹木が育つのに何十年とかか

る。すぐ成果が出ないので、短期間で結果を求めることを重視する社会では人財育成がしばしば軽視される。

しかし、教育をおろそかにした国は滅びると歴史が物語っている。逆に教育に力を入れていく国は人が育ち、その仲間・後進を教育し、人財連鎖で未来を豊かにすることができる。

「人づくり」が日本、そして世界の未来を創るのであり、超少子高齢化の日本において、人財育成教育は必須である。窓辺最終回として、読者の皆様へ感謝を申し上げると同時に、日本の未来を皆で創っていかれたらと思っている。

スタンフォード大
主任研究員、医師